

コミュニケーションの輪を広げるHPづくり

— CMSを活用した学校HPづくり —

岐阜市立本荘小学校 校長 井上 志朗

sinoue@mbi.nifty.com

<http://cms.gifu-gif.ed.jp/honjyo-e/>

キーワード：学校、家庭、地域、HP、CMS、コミュニケーション

1. はじめに

学校では、だれもがパソコンやインターネットを使えるような環境になってきた。これからは、すべての子どもたちが、学校生活や授業の中で日常的に透明な道具として活用し、パソコンやインターネットのよさを見つけ、生活や学習に生かしていきたい。

今までは、総合的な学習などで活用してきたが、徐々にハードやソフトが整備され、教科学習やクラブ活動や委員会活動でも活用し、学校だけでなく、家庭と地域をつなぎ、情報を共有していきたい。そのためには、地域の方や子どもたちにも学校のHP作りに参画させていけば、ふれあいの輪を広げることができる。それを可能にしたCMSを活用したHPづくりを提案する。

2. 従来のHPの課題

2. 1 更新なしのHPが多い

どの学校でもHPを創ったが、更新がほとんどない学校もある。学校によっては、1年前の行事や前校長のあいさつなどが掲載されたまま止まっている。これでは、先生方や子どもたちも、HPというものに意識が薄れ、HPのよさが発揮されないまま、学校の子どもの活動の様子を、従来通り、学校だよりや学校、学年通信で発信している。

2. 2 ホームページ作成ソフトの問題

従来のHPは、ホームページビルダー等で作成していたが、作成ソフトがパソコンに入っていないと、HPは作成できない。また、操作方法が難しく、情報担当者のみがHPを作成していた。さらに、校長などの管理者の承認システムがなく、困惑していた。また、学校の特定のパソコンでしか、HPが作成できなかった。これでは、毎日のHPの更新は難しい。

2. 3 情報担当の先生だけのHP

学校の組織の中で、校務分掌の一つに情報担当を決め、HP作成をしている学校が多い。ところが、情報担当の先生は、担任を受け持ち、学級経営や教科指導に追われ、なかなかHPを作成することができない学校が多い。又、熱心な情報担当の先生がいて、毎日更新されていたHPだが、異動するとHPの更新は止まるケースがある。

3. CMSを活用したHP作成の提案

3. 1 CMSを活用したHP作成ソフトの公開

文部科学省の先導的教育情報化推進プログラム「校務の情報化」の委託で、XOOPS（オープンソースのCMS）を学校用のHP作成にカスタマイズして、誰でも、どこでも、気楽に使えるように開発した。開発した本ソフトは、岐阜市教育研究所のHPで公開し、自由に使えるようにしてある。よって、各自治体や学校で、本ソフトを活用すれば、HP作成が簡単にできるようになる。

*岐阜市教育研究所のHP 資料置き場に

<http://cms.gifu-gif.ed.jp/gifu-education/modules/mydownloads/>

3. 2 HP作成の環境整備

HP作成には、文字や画像情報が必要である。本ソフトを活用したHP作成では、デジカメの画像を小さくしないとうまく貼り付けられない。そこで、各パソコンに、デジカメの画像を縮小することのできるフリーの専用ソフトをインストールしておくとい。また、デジカメの台数を増やす工夫をし、だれもが手軽に使用できるように、職員室にデジカメ設置場所を作るなど、環境整備をする。



写真1 デジカメ設置板

3. 3 HP作成を情報担当者から全職員へ

HP作成を指導するには、やらせるのではなく、見本を示すのがよい。また、HPを情報担当者だけが作るものだと決めつけずに、全職員が作るようにする。そのためには、まず時間的ゆとりのある校長が見本を示し、次に、ゆと

りのある担任を持たない先生、最後に学年に関する行事や活動を担任の先生がHP作成するよう働きかける。

3. 4 学校から地域へ

P T Aの執行部の方や公民館の主事さんたちは、自分たちの活動をP T A新聞や広報誌などで情報発信をしている。新聞や広報誌の作成には、デジカメを使って、たくさんの写真を撮っている。ところが、せっかく撮った写真の数枚しか載せることができない。また、発刊するのが1カ月に一回などで、情報が遅れてしまう。リアルタイムに情報発信するには、HPが一番適している。そこで、学校のHPに地域の部屋やP T Aの部屋を作り、HP作りをして、発信できるようにする。

3. 5 大人から子どもたちへ

学校や地域の方がHPを作成できるようになると、次は子どもたちだ。子どもたちの日常的な活動としては、委員会活動やクラブ活動がある。ところが、活動の様子は、月に一回とか学期に一回、ペーパーや模造紙で報告している。ところが、家庭や地域までは報告していない。そこで、子どもたちにHP作成を教え、日常的な活動をリアルタイムで報告できるようにする。

4. まとめ

HPを誰もが気楽に作成できる仕組みを作り、リアルタイムで情報発信ができるようにすると、子どもたちも地域の方たちも、情報が共有でき、Face to face でのふれあいが増える。すなわち、HPで情報発信をすることで、コミュニケーションを点から線、さらに面に広げていくことができるようになる。ということは、HPはコミュニケーションの有益な道具になる。子どもたちに、この道具を透明な道具として使えるようにすることで、より質の高い学習や生活を送ることができるようになる。



図1